

eポートフォリオを用いた学習成果の可視化

Visualization of Learning Outcomes Using ePortfolios

田中 洋一^{*1, *2}

Yoichi TANAKA^{*1, *2}

^{*1} 仁愛女子短期大学

^{*1} Jin-ai Women's College

^{*2} 熊本大学大学院教授システム学専攻

^{*2} Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

Email: you@jin-ai.ac.jp

あらまし： eポートフォリオを用いて、セメスターにおける学習成果の到達度を自己評価させた実践を報告する。いろいろな科目での成果物や資格取得証等をエビデンスとしてアップロードし、学習の統合をどのように行っているかに注目する。また、eポートフォリオにおけるテキストを分析し、自己評価及び成績との相関等を分析する。

キーワード： eポートフォリオ、学習成果の可視化、学習の統合

1. はじめに

2016年3月31日に中央教育審議会から「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドラインが発表されたとおり、大学における教育の質を保証するため、学習成果の評価が必須となっている。学習成果の評価としては、直接評価か間接評価かという縦軸、量的データか質的データかという横軸の2軸で分類すると、4つのタイプに分けられる。筆者が所属する本学生活科学学科生活情報専攻では、(1) 量的データの直接評価である客観テストとしては、河合塾のジェネリックスキルテスト「**PROG**」等を活用、(2) 量的データの間接評価としては、F レックス学生意識調査等のアンケート調査を活用、(3) 質的データの直接評価であるパフォーマンス評価としては、生活情報専攻ラーニングポートフォリオ等を活用している。

2. 学習成果

生活科学学科のディプロマ・ポリシーに定めている、生活情報専攻で開講する専門科目を修得することにより身につける能力(学習成果)は下記のとおりである。

〔2016年度版〕

【知識・理解】

- (1) 現代社会において情報を活用する専門的な知識を体系的に理解している。

- (2) 自ら計画するキャリアを形成するため、情報・ビジネス・コミュニケーションに関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【技能】

- (3) 情報を活用(収集、分析、整理、表現、運用等)する実践的な技能を身につけている。
- (4) チームで協働的に問題を解決する技能を身につけている。

【思考・判断・表現】

- (5) 自ら課題を見つけ、多面的かつ筋道を立てて考えることができる。
- (6) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを自分の表現(口頭、文章等)で伝えることができる。

【関心・意欲・態度】

- (7) 広く社会に目を向け、問題意識を持ち、自らのキャリアを形成する意欲がある。
- (8) 家庭・企業・社会の一員として、さまざまな生活の場面で、思いやりやボランティア精神をもって行動し、市民としての責任を果たす態度を身につけている。

〔2017年度版〕

【知識・技能】

- (1) 情報に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。
- (2) ビジネス活動に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。

- (3) コミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

- (4) 情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。
- (5) ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。
- (6) コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。

【主体性・多様性・協働性】

- (7) 主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。
- (8) 建学の精神「仁愛兼済」や地域文化にもとづき自己を確立した上、多様な文化や考えの意義を理解し、共に生きる態度を身につけている。
- (9) 地域社会や組織の一員としてリーダーシップを発揮し、チームで協働する態度を身につけている。

3. ラーニングポートフォリオ

生活情報専攻では、カリキュラム・ポリシーに定める「学習成果の評価」の一つとして、生活情報専攻ラーニングポートフォリオ(図1)をあげている。本ポートフォリオは、オープンソースのeポートフォリオである Mahara を活用している。各セメスターの期末試験週間に、本専攻の学習成果を自己評価する Mahara ページを作成させている。各学習成果に関して、自己評価文、根拠、自己評価点数(1~5)を記入する。根拠に関しては、根拠資料を書くだけでなく、その成果物をブロックとして挿入する。たとえば、ブロック内で動画、ゲーム、資格証や模擬試験結果のPDFを閲覧可能とする。



図1 ラーニングポートフォリオ

2016 年度 1 年前期に、必修科目「生活情報論」にて作成したラーニングポートフォリオの自己評価点

数と前期 GPA を比較したところ、専攻全体としては弱い相関があった(相関係数 0.27)。2016 年度は学習成果の見直しをしたためにカリキュラム・ルーブリックを作成しなかった。そのため、学生により自己評価に大きなズレが生じたことが相関の弱い要因の一つだと考えられる。2017 年度は、カリキュラム・ルーブリックを明示し、自己評価させる予定である。

4. さいごに

Jenson (2014) は「eポートフォリオとは、継続学習、学習の深化、目的に沿った学習に寄与する自身の学びを記録するための道具である」と定義し、eポートフォリオ・リテラシーとして5つのスキルをまとめている。5つのスキルは図2のように螺旋状に繰り返される。「④知識統合の記録」とは学習をまとめ、あらゆる状況へ転移するスキルである。生活情報専攻ラーニングポートフォリオでは、知識統合として、ある科目での学びを他の科目や正課外活動へどのように適用しているかも記述させるようにしている。

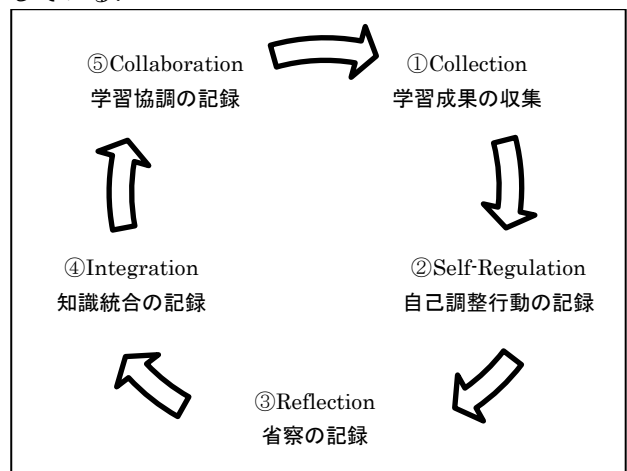


図2 eポートフォリオ・リテラシースキル

参考文献

- (1) Jenson, J. D. and Treuer, P.: "Defining the E-Portfolio: What It Is and Why It Matters", Change: The Magazine of Higher Learning (2014)
- (2) 松下佳代: "パフォーマンス評価による学習の質の評価: 学習評価の構図の分析にもとづいて", 京都大学高等教育研究 第18号, pp.75-114. (2012)
- (3) 田中洋一, 前田博子, 平塚紘一郎: "タブレット必携化による授業設計-エビデンスベースの学習成果アセスメントに向けて-", 仁愛女子短期大学研究紀要第48号, pp.13-19 (2016)
- (4) 中央教育審議会大学分科会大学教育部会: "「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー), 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) 及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン", http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/ho_ukoku/1369248.htm (2016), 2017年5月22日閲覧